

# CSR重要課題 2021年度の進捗

5つのCSR重要課題	重点テーマ	アプローチ・目標	リスク	機会	2021年度の進捗	SDGsへの貢献分野
安全で健康的な食の提供と責任ある消費者コミュニケーション	食品安全の確保	消費者視点の品質保証と品質保証体制の継続的強化 ● 食品安全マネジメントシステムの認証取得と維持			● 食品安全マネジメントシステムの認証取得：国内は全対象工場で取得完了、海外は取得を推進中 ※ 認証取得状況はこちら➡ <a href="https://www.nisshin.com/safety/authentication.html">https://www.nisshin.com/safety/authentication.html</a> ● 国内外の事業場で品質保証研修の実施(対象:グループ全社の研究開発・生産・営業業務に携わる従業員 参加者約3,500名)	12 持続可能な消費
	責任ある消費者コミュニケーション	公正で責任ある消費者コミュニケーション ● 倫理や人権、環境に配慮した広告宣伝活動の実践 ● 消費者エンゲージメントの向上への取組みの推進	● 品質事故等による社会及びステークホルダーからの信頼低下 ● 健康に関する消費者ニーズへの対応遅れによる成長機会の損失	● 安全・安心な製品の供給によるお客様からの信頼獲得 ● お客様の声を生かした製品改良・開発の機会の獲得 ● 健康志向の高まりに伴うビジネス機会の拡大	● 広告表現等における差別的表現に関する社内研修の実施(対象:グループの広告宣伝に携わる社員) ● 幅広い年代(シニア、小中学生)を対象にした出張授業の実施(参加者368名/8回) ● 消費者との双方向コミュニケーションから得た意見を製品改良に反映(「日清 クッキング フラワー®」に「コムギコ」の点字を追加)  ● 日清製粉が主体となり、グループ独自製法の小麦ブラン「SFブラン」を開発。日清製粉ウェルナが同小麦ブランを採用した家庭用機能性表示食品「ナチュブラン」ほか合計4品目を発売。	2 健康な食生活 3 持続可能な消費
	健康的な食生活への貢献	小麦の成分を中心とした、メタボ予防効果、脳機能やアンチエイジングに関する効果等、各種の健康機能性の研究開発				
安定的かつ持続可能な原材料の調達推進	小麦の安定的な調達	主要原料の小麦の持続可能な調達 ● 小麦の気候変動リスクの把握と対応	● 気候変動影響等による小麦の調達への影響 ● サプライチェーン上の環境課題や人権問題の発生による調達不全、企業価値の毀損	● 安全・安心な製品・サービスの安定的な供給体制の構築	● 気候変動による小麦への影響についての文献調査を実施 ➡ <a href="https://www.nisshin.com/csr/environment/pdf/climate_change02.pdf">https://www.nisshin.com/csr/environment/pdf/climate_change02.pdf</a>	2 健康な食生活
	持続可能な原材料調達	公正で倫理的な取引を基本とした責任ある調達活動推進 ● 「責任ある調達方針」の実践 ● サプライチェーン管理の強化	● 自然災害や感染症、紛争等の地政学リスクの発生による原料供給の停滞・途絶		● 人権デュー・ディリジェンスでの人権リスクの特定(対象:製粉事業、食品事業、中食・惣菜事業の5社) ● 「責任ある調達」に関する研修の実施(対象:製粉事業、食品事業、中食・惣菜事業の調達・購買、開発等に携わる社員) ● 国内サプライヤーへのグループ調達方針の周知とCSR調達アンケート調査を通じたリスク評価の実施(グループ5社) ● 製品パッケージ等の包装・梱包資材のFSC® 認証紙への切り替え(例:「マ・マー あえるだけバスタソース 逸品」シリーズ他)	14 持続可能な消費 15 持続可能な消費
食品廃棄物、容器包装廃棄物への対応	食品廃棄物の削減	食品廃棄物の削減を推進し、持続可能な食料システムの構築に貢献 ● 2030年度までに原料調達からお客様納品までの食品廃棄物の50%以上削減(2016年度比) <sup>*1</sup> ● サプライチェーン各段階のお取引先とともに食品廃棄物を削減 ※ 削減対象:製造・流通で発生した食品に供することができない副産物や廃棄物のうち、サーマルリサイクル、減量、埋立、焼却等により処理したもの	● 廃棄物や資源循環に係る法的規制の変更・強化への対応コストの増加 ● 廃棄物削減や資源循環への対応遅れによるステークホルダーからの信頼低下	● 廃棄物削減の取組みによる生産の効率化、コスト削減 ● 環境配慮型製品の開発によるビジネス機会の拡大	● 食品廃棄物削減実績 2021年度:1,244 t (基準年度比34%削減) ● サーマルリサイクルからマテリアルリサイクル化(飼料、肥料、発酵、再利用等)の推進(例:処分方法の変更、敷地内飼料化設備の設置他) ● 製品の賞味期限延長、賞味期限の年月表示への切り替え	12 持続可能な消費 14 持続可能な消費
	容器包装廃棄物への取組み	サプライチェーン各段階のお取引先とともに、3R+Renewableを推進 ● 2030年度までに化石燃料由来のプラスチック使用量の25%以上削減(2019年度比) <sup>*2</sup> ● 環境に配慮した設計等プラスチック資源の循環を促進 ● バイオマスプラスチック、再生プラスチック、再生紙、FSC® 認証紙等の持続可能な包装資材の使用を推進			● 化石燃料プラスチック使用量実績2021年度:5,302 t (基準年度比4%削減) ● プラスチック製ボトル容器の薄肉化、バイオマス素材の使用(例:「日清 クッキング フラワー®」他)、製品包装のFSC® 認証紙への切り替え、包装の簡素化	
気候変動及び水問題への対応	気候変動への適応とその緩和	省エネ技術導入や再生可能エネルギー活用を推進し、脱炭素社会の構築に貢献 ● 2050年までにグループの自社拠点でCO <sub>2</sub> 排出量実質ゼロ ● 2030年度までにグループの自社拠点でCO <sub>2</sub> 排出量50%削減(2013年度比) ● サプライチェーンにおけるCO <sub>2</sub> 排出量の削減	● 自然災害等の激甚化や頻発化、気温上昇や水不足等による生産拠点や原材料調達等への影響 ● 炭素税等の規制によるコストの増加 ● 気候変動、水問題への対応遅れによるステークホルダーからの信頼低下	● 環境に配慮した持続可能な製品・サービスの需要拡大によるビジネス機会の拡大	● CO <sub>2</sub> 排出削減目標に対する実績 — 2021年度CO <sub>2</sub> 排出量381千t -CO <sub>2</sub> (基準年度比18%削減) ● CO <sub>2</sub> 削減ロードマップ、インターナルカーボンプライシング(ICP)の検討(2022年度運用開始) ● 廃熱利用、高効率機器導入等の省エネ活動の推進 ● 太陽光発電パネルをグループの6工場で新設・増設、本社地区の使用電力を100%再生可能エネルギー由来電力へ切り替え	13 気候変動 7 持続可能な消費 6 持続可能な消費
	水資源への取組み	サプライチェーン各段階のお取引先とともに限りある資源である水の有効利用 ● 2040年度までに工場の水使用量原単位30%削減(2021年度比) <sup>*3</sup> ※ 将来の水の供給リスクが高い地域では水使用量の半減			● 水使用量原単位2021年度:1.2m <sup>3</sup> /t ● 原料調達地域と生産拠点所在地域の水リスク・ストレス評価の継続実施 ● 新設のOY インド Pvt. Ltd. イースト工場でゼロ排水(ZLD)システムを導入(2022年8月に工場稼働)	
健全で働きがいのある労働環境の確保	多様性の尊重	人間性と多様性を尊重し、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場づくり ● 2022年度国内女性管理職比率15%以上(日清製粉グループ本社)			● 国内女性管理職比率14.4%(対象:日清製粉グループ本社、2022年3月末時点) ● 男性社員育休取得率65.8%(前年差+26.3%)(対象:グループ7社) ● 女性社員向けキャリアセミナー、男性社員向け育休取得推進セミナー実施(対象:グループ7社)	
	人材育成	社員一人ひとりが能力を発揮し、成長を実感できる人材育成 ● 次世代事業経営者の育成 ● 技術系人材の各専門分野における能力開発 ● グローバル人材の育成	● 採用競争力の低下、人材の流出に伴う労働力不足 ● 労働災害の増加、従業員の健康リスクの上昇による事業継続への影響	● 働きがいの向上による人材の定着 ● 多様な人材の活躍によるイノベーション創出と会社の成長	● 次世代事業経営者育成プログラム実施(社内独自研修N-Map I・II、外部幹部研修への派遣)(対象:グループ7社) ● 新規導入した研修一役員・社員を対象としたDX研修、新卒入社2年目・3年目研修等(対象:グループ7社) ● 2021年度 一人当たりの研修時間:18.1時間(前年差+5.4時間、対象:グループ7社)	8 働きがい 5 ジェンダー平等
	従業員の労働環境と健康	● 労働安全衛生管理活動の継続的な強化(労働災害発生ゼロ) ● 働き方改革の推進 ● 健康経営の推進:「働く環境」「身体のケア」「メンタルヘルスケア」3つの柱で施策を実行			● グループ全事業場の労働安全衛生に関する定期的な社内監査(2021年度31事業場で実施)及び国内事業場での第三者診断の実施 ● 業務の種類に応じた労働安全衛生研修、高齢作業員に対する安全教育の実施(対象:国内グループ全社) ● オフィスレイアウトの変更、ITを活用した業務効率化等による働く環境の整備 ● 心理的安全性向上への取組みを開始一役員・社員を対象とした研修及び各事業場での意見交換会の実施(対象:グループ7社) ● 第2回エンゲージメント調査の実施(対象:グループ7社) ● 日清製粉グループ本社が健康経営優良法人ホワイト500に認定、新たにグループ2社が健康経営優良法人に認定	

\*1 対象は国内グループ会社。イニシオフーズ、ジョイアス・フーズ、トオカツフーズは2019年度比 \*2 対象は国内グループ会社 \*3 対象は国内・海外グループ会社